

【コーディネーター（久世）】 それでは、続いて越前馬場の文化財の保存ということで、宝珍先生より報告をいただきたいと思います。

パネリスト

「越前馬場と文化財の保存活用」

宝珍伸一郎氏(勝山市教育委員会世界遺産推進室)



私は、越前馬場の話をさせていただきますが、皆さんのお話とは少し違って、平泉寺の場合は、1574年に焼かれておりますので、美術品や古文書はほとんど無くなって、遺跡になっている場所として紹介させていただきます。

これは、勝山の北部から望む白山です。こういう形で白山が綺麗に見えます。ちょうど11月から5月ごろまで、

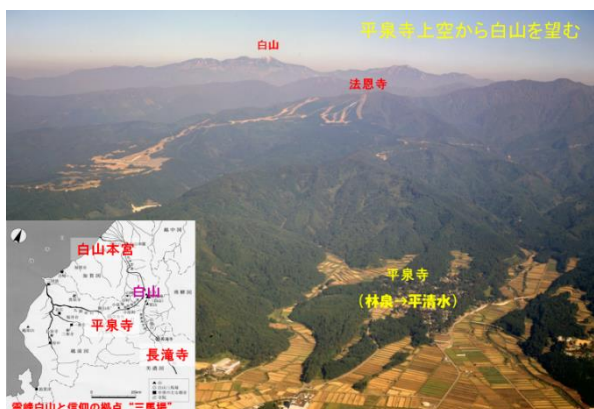
黒々とした山の上に真っ白い山頂部分が見えます。先ほど曾我先生の写真でありましたが、尖った山ではなくてなだらかな山に見えます。どれが主峰の御前峰かわかりますか、皆さん。実は右端です。2,702メートル。右側のピークがそうなのですが、非常になだらかということで、女性に例えられて、その神様が十一面観音にも例えられております。

麓から見ると真っ白な山で、恐らく10メートルぐらい雪が積もっているのだと思いますが、あそこへ入っては生きて帰ってこれないと言いますか、そういう聖域として表れています。ですから、昔からあそこが信仰の対象になっていたということが分かると思います。

直線距離で30キロぐらいなので、一番平野部から白山が間近に見えるのがこの勝山だというふうに言えると思います。

ここに現れた神、禁足地におられる神様が麓におりたのが平泉寺です。平泉寺には、山麓からこんこんと水が湧き出る池がありまして、そこに白山の女神が降り立たとされています。現在、御手洗の池と言われておりますが、これは泰澄の伝記では林泉、林の泉と出てきます。ここに貴女、尊い女性があらわれたそうです。よほどの聖域でないと白山の神は降りて来ないのですが、この越前ではここに降り立ったということです。ここから平泉寺ができたということになります。





これは、平泉寺上空、白山の方向を写した写真で、平泉寺の奥から非常に山がたくさんあり、30キロ向こうに白山があります。平泉寺は大体この写真中央右あたりです。この中腹に水がこんこんと湧き出る部分があります。ちょうどそこが林泉です。これが平清水、山の中から泉が湧くということと呼ばれて、それが平泉寺になってきます。画面奥の法恩寺とかピークを越えて白

山に至ります。左の地図右上あたりに白山がありますが、三馬場をあらわしたものです。右下に長瀧寺、長滝です。地図上部の加賀の白山本宮。そして中央の平泉寺になります。こういう形で、白山に一番短い距離で登れるのがこの越前という特徴になります。



平泉寺から白山まで30キロありますが、山の道を登って、白山、聖域に至るとというのが禪定道になります。

例えば平泉寺から白山までは、12の宗教施設を通して白山へ登ったと言われておりますが、かなりの部分は分かっていますが、実際どこにあったかわからないような施設もあります。例えば冬ごろ山の中に入ると、原始林みたいな、原生林といいますか、落葉広葉

樹の中に杉の大きな木が見えたりします。そこへ向かっていくと、室跡、先ほど小阪さんのお話にありましたが、宗教施設の場所があり、そこに杉の大きな木が生えています。そこが何らかの宗教施設があったというふうになり、こういう状態で遺跡が見つかってきます。

そして、ちょうど今頃二月の冬の時期、やぶがひどいのですが、葉っぱが落ちて古道が見つかることがあります。

白山の修験は、色々な宗教施設で修行しながら白山の頂上に到達するというものなのですが、特に重要な箇所が滝と洞窟と岩場です。滝では身の穢れをはらって、洞窟にこもることによって特別な力を宿すといいますが、自分の体に宿して、それから岩場を通ることによってもう一遍生まれ変わるという擬死再生の場です。ですから、この白山禪定道沿いには、そういう修行の3点セットが点在しております。これが白山に登って修行するような、そういう場所になっています。

これ30キロあって、遺跡が点在しております。これもまだ越前禪定道でも十分調査されてい

ません。

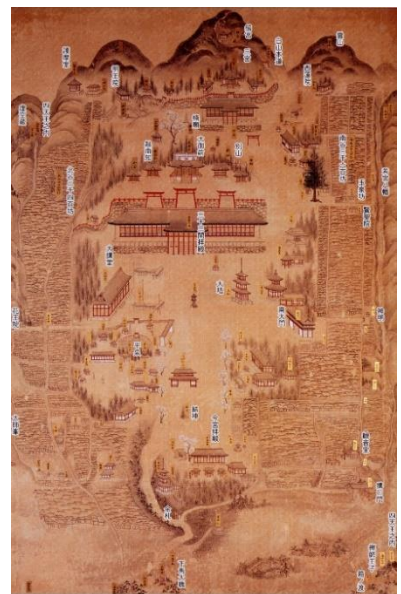
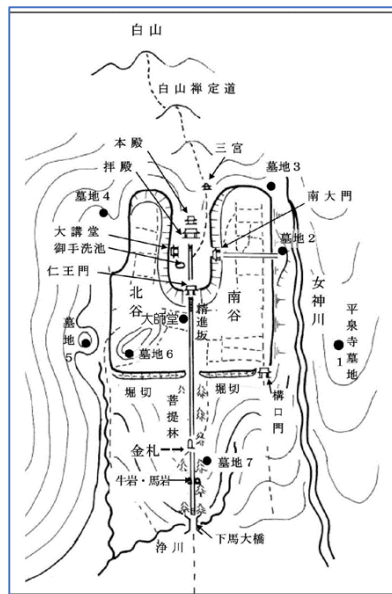
これは平泉寺がある勝山ですが、大体こういう状態になっています。一番向こうに見えるのが日本海です。ちょうど山合いを九頭竜川が流れて、削っていったところに勝山があるという感じです。

奥は福井平野になります。中央が勝山市です。平泉寺は手前側にあります。この山沿いにずっと登っていくと白山になります。

その拠点の平泉寺ですが、先ほど言いましたように1574年、今から445年前に一向一揆によって焼かれて全部灰になってしまいました。9年後に再興されましたが、境内の規模は10分の1ぐらいになってしまい、かつて6,000のお坊さんの屋敷があったという場所は6坊しか再興されず、ほとんど遺跡になってしまいました。

これは、平泉寺が焼かれる以前の境内の様子を描いたものです。中心部に主要な伽藍を置いて、両側の谷に六千坊と言われるような僧侶の屋敷を配置しています。これは白山神社さんで所蔵されています。

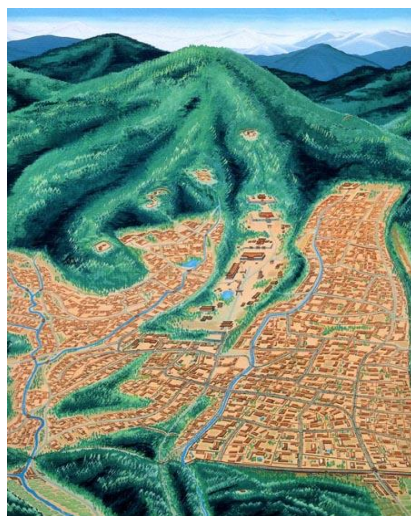
これを模式図で描くと大体左の図のような感じになります。中世の、四、五百年ぐらい前の平泉寺は、背後に山があります。この右側を川が流れていて、この山の中腹に境内が広がっています。大体奥へ1.2キロ、幅1キロぐらいの形になります。背後には白山、そういう禅定道と呼ばれる修行の道があります。中心伽藍は、ここにありますようないろんな主要となる伽藍、四十八社、三十六堂、六千坊と言われますが、四十八社、三十六堂というのは、この境内中心部の尾根の上にあります。その両側にお坊さん



の屋敷が6,000、南谷は3,600、北谷は2,400あったというふうに言われています。正面には、堀を掘って守っています。ですから非常に山の中腹に開かれた大きな宗教都市というふうに言えると思います。

麓からは、色々な下馬大橋とか結界をつくってこの聖域に入っていくという形になります。さらに白山の方向に向かってはいろいろ岩場を通ったり、修行をしたりして、白山の頂上に行くころにはもう神・仏に近づくといえますか、そういう構造なっているようです。

復元しますと大体右絵のような形で、中世の、四、五百年ぐらい前の平泉寺は復元できるというふうに考えております。

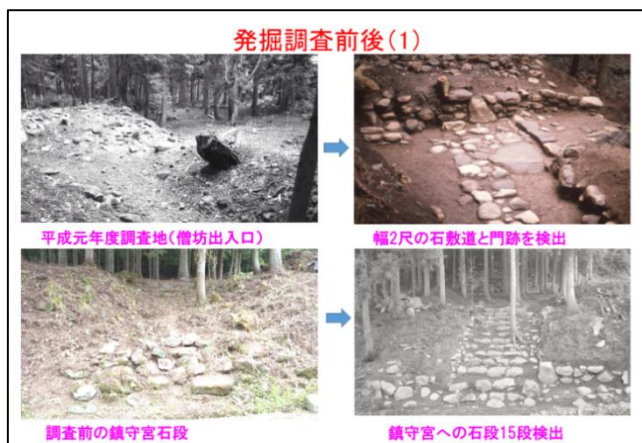


発掘調査ですが、山の中を行きますと、左上の写真のようなくぼんだところがあります。これを発掘しますと右上のようなお坊さんの屋敷に入っていくための石を敷いた道路とか入り口が見つかります。

左下は鎮守宮というところですが、発掘すると右下の形で石段が出てきました。これも中世のものです。非常にきれいに遺跡が出ております。

また、(2)の左上のような山の中の道を発掘しますと、右上のような石畳、中世の石畳が出てきます。当時、中世では石を敷き詰めるとか、石を積むというのは非常に珍しいのですが、平泉寺では非常にこれを多用しております。

さらに、左下は山の中の道ですが、写真右側は田んぼですが、発掘するとその右のような



石畳の道が出てきて、田んぼのあぜは、お坊さんの屋敷を囲む塀の基礎部分の石ということが分かってきております。こういう形で中世の遺跡がそのまま残っています。

そして、境内の中心部、先ほど言いましたように、本殿、拝殿がありますが、そこも、現在、建物が建っておりますが、その下には古い礎石などがあります。寸法を測ると、大体90尺の寸法で作られていることがわかります。27メートルの間隔でちゃんと平たん地が作られた礎石が並んでおります。

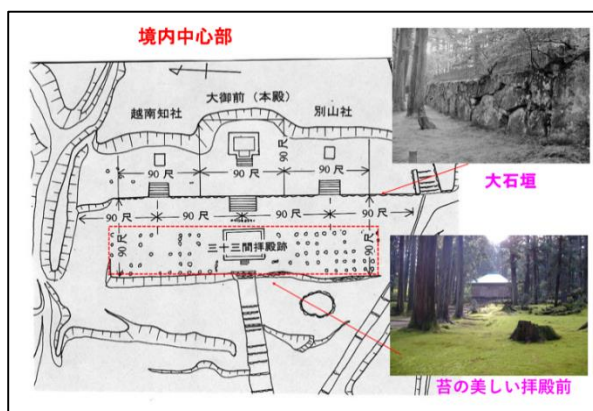
右図は、三十三間拝殿という非常に大きな拝殿と言われているのですが、3つの社の拝殿を兼ねているので大きいと言えると思います。

加えて、右上の写真のような大きな石垣があります。これは中世ではほとんど例がありません。このように石を積むのは、江戸時代になって石を高く積んでいきますが、中世では非常に珍しい高い石垣です。これは、平泉寺の一番正面、白山の神々を祭る社の前にありますので、見せる石垣といえますか、この平泉寺の偉業を示すための石垣というふうに考えられます。

そして、右下の写真は有名な平泉寺のコケの部分です。赤く囲ったあたりを写したところになります。

また、平泉寺には6,000のお坊さんの屋敷があったと言われているのですが、それは大体復元すると右下の絵のような形で描かれています。こういう建物が6,000あったということですが、その右上の写真のように山の中を発掘すると、建物を支える土台の石が出てきて、左上の写真のような石敷き、門から建物へ行くための石を敷き詰めたようなもの、これは500年ぐらい前のものですが、そういったものが地面の中から出てきております。

左下は門の跡です。門の床も石が敷いてありました。ですからこういう坊院といえますか、僧侶のお屋敷が伝承では6,000あったというふうに言われております。



そして右の地図は平泉寺全体を下の方にありますように1町という、当時、条里制とか色々古い寸法がありますが、109メートルの方眼をかけると、大体計画的に様々な施設が作られているというのが分かってきております。このライン上に沿って。

例えば一番下、下馬大橋というところですが、ここでは馬をおりて参拝するということになります。下に浄川という川が流れておりますが、これは清めの川で、そこで一遍垢や埃を払うということです。

4町行ったところに牛岩・馬岩という大きな岩がありますが、これは結界といいますかそこから聖域になるということで岩が2つ置いてあります。そういう場所です。

さらに4町行ったところに金札。ここは一般的に言われているのは、ここで良いことをした人と悪いことをした人を見張っていて、悪いことをした人をここから追い払うと言われるところ。『かねふだ』とか『かなふだ』とか言います。

こういった場所があって、さらに精進坂があります。ここからは尾根の上になって、平泉寺の主要な伽藍が立ち並ぶようになりますので、かなり平泉寺も計画的につくられていて、不浄なものは入ってこないというような構造をとっているということがわかると思います。

加えて、平泉寺から当時使っていたものがたくさん出てきます。中世の色々な陶磁器類。それから、石で作られたものとかです。ですから、平成元年から発掘調査が始まりましたが、現在破片で40万点ほど出ております。そういったものは中国から運ばれてきたものや、瀬戸とか美濃あたりで焼かれたもの。それから、地元の石で作られたものとか、越前焼、越前で焼かれたものがたくさん入ってきております。

こういったところを、発掘の状況を見ていただくということで、平成20年から整備をして現地を見られるようにしております。合わせて、その発掘成果を見ていただくような、施設も建設しております。



右は平泉寺の全体の国指定の範囲です。平泉寺は、先ほどの絵図にありますように全域を国の重要文化財に指定しております。計画的に発掘調査をして保存活用を図っています。先ほどの下馬大橋は左端あたりになります。右の写真は禅定道のところです。

また、現地で図の下のような門・土塀を復元して、ガイダンス施設、まほろばというのを建設しまして、そこで発掘の成果なんかも見ていただいております。右の写真がまほろばの内部です。白山信仰の歴史とか発掘成果なんかをここで紹介しています。

あと現地へ行きますと、特に南谷を3,600のお坊さんの屋敷があったところですが、見学路を整備したり、門・土塀、当時の塀を復元したり門を復元したりして、現地で見られるようになっております。

そしてこの平泉寺、三馬場の中では非常に遺跡が残っています。まだこちらのほうは美術品とかが残っていて、加賀馬場のほうは古文書とか色々残っています。それぞれ馬場では特徴が、残っているものが違うので、そういう違いを合わせて研究していくことによって、白山文化といいますか、白山の歴史とかが解明されていくと思います。それ以外に、この平泉寺、実は越前の有名な戦国大名の朝倉氏の城下町にも影響を与えているみたいです。

朝倉氏遺跡へ行きますと、正面の入り口部分に大きな巨石を使っています。右側のような見える石垣、朝倉は戦国の最後の100年の城下町なのですが、平泉寺はそれ以前の800年ぐらい栄えておりますので、平泉寺の最後の100年に朝倉は重なっています。ですから越前では平泉寺で培われた美術というのが朝倉に行っているということもわかります。



右は、朝倉と平泉寺を比較したものです。一乗谷に復元武家屋敷が今ありますが、ここを、左下が平泉寺ですが、道が折れ曲がった造りや、屋敷の配置が一乗谷と平泉寺はよく似ています。朝倉氏遺跡では、道路を挟んで武家屋敷が並んでいますが、平泉寺ではこういうふうにお坊さんの屋敷が連なっているということで、越前では、平泉寺の技術が朝倉に伝えられて、そういう全体の中で考えていかないとなかなか中世というのは解明できないというようなことが言えると思います。

そして最後に、これをまとめますと、平泉寺は越前においてどういう位置づけかという、白山の麓の聖域から、先ほど言いましたように御手洗の池が、水が湧き出します。ですから、その水というのは、九頭竜川となって日本海に流れ出ています。それぞれの村々には白山を祭る神社、白山神社が祭られて、白山神田とか白山に捧げる荘園みたいなものがあったり、その豪族が平泉寺に坊を構えていたりすることで、大体こういう構造が見てとれます。

白山は、先ほど曾我先生の話にもありましたように水分神、水がどんどん平野部を潤すということで、その水は平泉寺の池からどんどん湧いて、そこに神がおり立ったという話もそういうような繋がりになっています。ですから水の信仰というのが平野部にも広がって、白山文化というのは平泉寺だけでなく、三馬場だけでなく、さらに平野部も関連づけて見ていかないとなかなか全体像が見えてこないというふうに思っております。以上で私の報告を終わらせてもらいます。(拍手)

石の文化(平泉寺と一乗谷)



平泉寺白山神社境内



一乗谷朝倉氏遺跡



本殿前の大石垣



一乗谷下城戸の大石垣

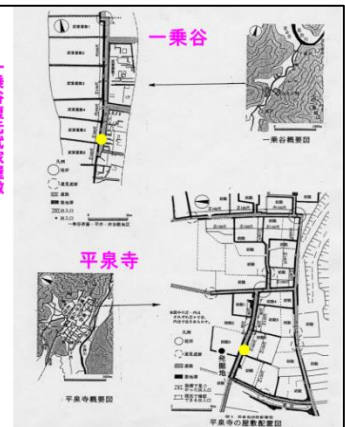
寺院から城郭へ



一乗谷復元武家屋敷



平泉寺完備石畳道



白山と平泉寺、九頭竜川の関係

